

毎年、6月から10月にかけては、梅雨どきの大雨や台風による災害が心配される時期です。

幸い横芝では、最近、大きな被害を受けたことはありませんが、だからといってのんびり構えているわけにはいきません。

大自然を相手に、昔から言い伝えられてきた生活の智慧によつて命拾いをした実例をご紹介しますので、あなたの家のまわりを今一度点検してみてください。

### 降り続く雨

昭和46年9月7日深夜、裏山が崖になっている農家の母屋が、突如、土砂くずれによつて全壊してしまいました。この家には、70歳代の老夫婦が住んでおり、前日からの雨

により危険を感じていました。

夕食を済ませてからおばあさんは、「もし、びやく(崖くずれの意味)がきたら危ねえから便所に入ったほうがいいが、おじいさんは「俺の家は建て造

りがいいが、へたなことでは何ともねえ。俺は座敷に寝る。ビクビクすんな。」

こんな会話のあとおばあさんは、どうにも座敷にいたので、生きた心地がしないといつて、ひとり母屋の北西の隅にある便所の中で一夜を明けました。腰を落ち着

けました。土砂くずれて住宅が全壊それから2、3時間後のことです。突然「ドドッ」という鈍いウナリとともに、母屋がミシミシ、バリバリと押しつぶされてしまいました。

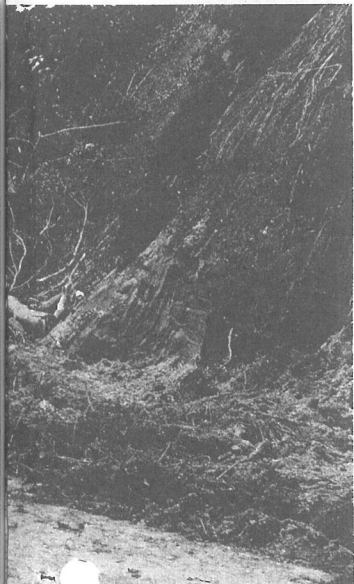
何が起ったのか、夢か誠か、何がなんだかわからない空白の時間が過ぎていきました。

トイレのおばあさん脱出 しばらくしてから、おばあさんは我に返り、自分が便所に避難していることを思い出しました。けがはない。でも、外に出ようと思っても扉が開かない。おじいさんはどうしたかな。雨の降る音だけで人の声は聞こえない。ひしゃいだ扉に何度も何度も体当たりしているうちに、ようやく体が抜けられるだけのすき間ができました。廊下に出ると、そこはひどい状態です。おばあさんはペチャンコになった家の中を這いずりまわり、やっと庭に出ました。

そして、気になるおじいさんを探しました。まっ暗闇の中を夢中で探しました。でも声がない。もしかしたら、家の下敷きで死んでしまった

# 生活の知恵が

# 命を救った



(写真は太総地区のがけくずれ)

## 町と 議会の 動き

5月

### 町長

- 1日 成東警察署次長歓送迎会
- 2日 県町村会主催による井上大臣を囲む会千葉市
- 7日 臨時町議会
- 9日 三町村長打ち合わせ会(松尾・蓮沼・横芝)
- 10日 県町村会評議委員会 千葉市
- 13日 公民館クラブ連協総会
- 13日 首都圏中央連絡道路建設促進期成同盟会総会 千葉市
- 15日 道路協会総会 千葉市
- 15日 成田コリンズ竣工式 千葉市
- 16日 横芝町立学校関係教職員歓送迎会 千葉市
- 19日 伊藤左千夫記念公園竣工式 成東町
- 21日 市町村長会議 千葉市
- 22日 商工会通常総会
- 松尾保健所・保健衛生推進連絡協議会
- 山武地方協議会東金市